

上野名跡志

三篇

六

庫	文	閣	内
一	三	六	和
四	七	一	書
二	八	〇	架
〇	〇	〇	冊
〇	〇	〇	號
〇	〇	〇	類



内閣文庫	
番號	和 36471
冊數	7 (6)
函號	174 238

地 四 一

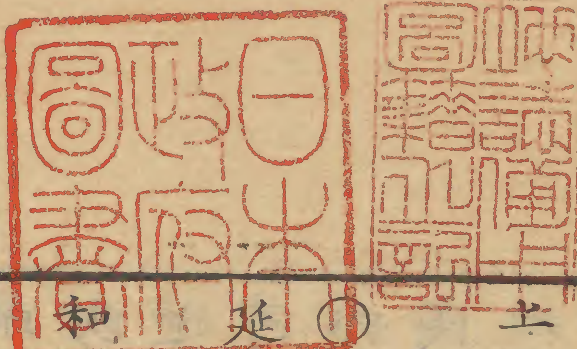


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

肉也

上野名跡志三編卷上

上七 富田永世輯録



那波郡

延喜民部式ニ那波郡 和名抄國郡部ニ那波
名跡考ニ那波ハ繩力亦ハ平ノ義カト云

和名抄那波郡郷名

朝倉阿久良 鞘田佐多也 田後多之 佐美

委文之上 池田伊多伊 葦束爾加良 假字考ニ委文ハ倭ノ草ノ省文

葦束ハ今猶存ニテ丹良塚ト書ス名跡考ニ朝倉ハ今猶存レテ
群馬郡ニ入鞘田ハ今群馬郡ノ齊田也委文ハ上宮カ田後ハ角
洲辺佐味ハ小泉村ニテ小泉ノ意カト云

延喜神名式ニ那波郡ニ座 火雷神社 倭文神社

上野國神名帳那波郡

從三位國玉明神 從三位藤原明神 正五位上栗原明神

正五位上石手明神 從五位上霜川明神 從五位上十二月明神

從五位三村明神 從五位布留明神
名跡考ニ飯玉明神小泉村ニアリトイヘリ國玉明神ニアラヌカ

○那波氏

保元物語ニ上野國名波ノ太郎 平家物語田原亦太郎忠綱力手
ニ那波ノ太郎 義仲ハ上野國ノ住人那波ノ太郎弘澄ヲ先手ト
シテ云々 源平盛衰記ニ院ノ御所ノ守護上野國ノ住人那波太
郎弘澄云々 東鑑ニ那波太郎同次郎藏人同弥五郎同左近大夫
政茂同刑部少輔同五郎 兼久記ニ那波藤八 太平記ニ那波左
近大夫 南方記傳ニ那波上総介 後太平記ニ那波掃部頭氏元
同孫次郎宗元同彈正少弼氏康同弥次郎 鎌倉九代記ニ那波掃
部助 鎌倉大草紙上野一揆ニ那波大炊介同左京亮同刑部少輔
關東兵亂記ニ那波上総之介 同古戦録ニ那波對馬守宗元同無
理之介宗安 那波ハニ家アリトイヘハ此内ニ家相交ナルヘシ

上野名跡志三編上

○那波城

豆相記ニ謙信岡名和城 北越軍記ニ名和城ヲ攻落ス云々
新田正傳或問ニ云天文十五年二月那波太郎廣高新田ニ背長尾ニ
與カシテ堺ノ町辺迄出張金山成繁ヨリ先手衆馳向合戦那波方
敗軍廣隆自害子息無理之介廣光甲別ノ落那波城新田持ト成渡
船場故在番スト云カ長尾ハ白井惣社幸ノ長尾カ謙信ニハアルヘ
關東古戦録ニ云永祿三十月輝虎勢多郡那和城ニ働カ、ル本庄
越前守繁長未弥五郎トテ十七歳ナリシカ先登ノ命ヲ受攻寄夕
リ城至那波對馬守宗元同無理之介宗安父子共ニ勝タル兵ニテ
カケ出テ戦フ本庄モ大剛ノ士ニテ自身鎗ヲ合太刀打シテ勇ヲ
揮ヒ宗元ヲ討取無理之介ハ切抜行方不知落ニケリ云々 後甲及ニ
桐生ノ繫城ナリトテ北条丹後守ヲ入置後厩橋ヘ移關東惣目付
トナル云々 勢多郡ハ誤那波郡也

天文十五年ヨリ永祿三年ノ間十五年アリ天文十五年ニ新田
二属シ永祿三年上杉ノ為ニ落シニハアラヌカ謙信那波城ヲ
攻シ夏ハ多書ニ見ユ名乗ノ違ハイカ、ニ家アレハ紛シナル
ハシトフレ是トモ不弁

後上野志ニ云那波二家アリ一家ハ藤原秀郷ノ裔淵名太輔魚行
二男成綱カ子那波二郎秀廣其子太郎廣隆泉龍寺開基一家ハ大
江ノ廣元ノ三子掃部介政廣賴朝卿ノ封ヲ受那波ヲ領ス後ニハ
一家トナルカトオホシ小泉ハ那波氏寂初ノ城那波城ハ堀口村

那波掃部介政廣ヨリ駿河守宗俊弘治元年迄居住ト云
サレハ是ハ無理ノ介落シ那波城トハ別ニテ永祿三ヨリ六年
前弘治元年ニ落城セシナルヘシ

○那波在

太平記ニ宇都宮一統利根川ヲ打口タリテ那波ノ庄ニ著桃井長
尾後ヨリ追来ル宇都宮薬師寺氏家踏田小溝ヲ隔テ合戦ス長尾
桃井敗走三里ノ間平野血ニナル軍畢テ四五月ノ後迄モ草腥地

鬼クシテ尸路徑ニ横レリ云々櫻雲記ニ正平六年十二月宇都宮
氏細ト桃井長尾於上州名波庄合

鎌倉大草紙ニ顯定憲房定政太田道真ヲ屢ニテ利根川ヲ渡那波
ノ庄一引退云々太田道灌所々ノ軍ニ打勝利根川ヲ越那波ノ庄
一兩上杉ノ迎ニ来五十子ニ飯陣ス云々

○玉村

日光道ノ馭群馬郡那波郡入交ノ地也
神鳳抄ニ上野國內宮玉村御厨百二十五丁
前太平記ニ玉村ト云所ノ男云々東鑑北条九代記等ニ玉村太
郎曾我物語富士ノ狩供奉ノ人々ノ中ニ玉村斯ノ人カ
長尾昌賢影像記ニ享徳二年昌賢入道軍忠依無比類從將軍家玉
村十五郷ヲ賜北條五代記神流川合戦ニ瀧川一盆尻橋ヨリ五

村ノ方へ打出ツ云々
○角淵村
鎌倉大草紙ニ上野國ノ守護代大石石見守憲重ハ手勢許ニテ永
享十二年四月四日同國角淵ニ出張ス云々
北越軍記ニ謙信角淵ヨリ鉢形迄焼ハタラク云々

○茂木村
後上野志ニ茂木村家ノ上ニ小祠アリ前ニ長三四尺許ノ石像アリ
甚古テ形状辨カクシ清和帝ノ陵ト傳ト云

清和天皇ハ三代実録ニ元慶四年十二月四日癸申三刻太上天
皇崩於日覺寺春秋三十一詔火葬中野不起山陵七日丙戌是夜
酉四刻奉葬太上天皇於山城國變名郡上栗田山奉置御骸於水
尾山上云々ト見エテ延喜式拾本抄等ニ山陵見エ玉ハ又故ニ
是リ水尾帝ノ山陵也ナト好長ノ者ノイヒ初シナルヘシト入
ニ同ニ本木村ノ文字和モシハ商朝ノ宮ノ御ユカリト後世
ハモリ奉ルシ跡ニハアラヌカ倉賀野ヨリ玉村通ノ道ノ傍ニモ
御陵塚ト云アリトキケリ

山吹日記ニ云赤城山ノ縁記ニ豊城命ニマス故ニ彦狹島ノ玉ヲ
モ祀レリ御墓ハ群馬郡茂木村ニアリ今其所ヲ皇院島ト名ツリ
ト云トアルハ此茂木村也古ハ群馬郡ナリシカモ知ヘカラス
今訪見ルニ皇院島ハ方一丁許堀タクシタル中ニ古松ニ本
立リ其樹下ニ古キ石ノ五輪アリ梵字ヲ刻付タリ彦狹島ノ王
ノ御墓ト云ハ例ノ救多アリ書紀ニ奉葬上野國トアル故也斯
モ故アル所トハ見ユレト考エス
續日本後紀ニ兼和十四年十月癸巳上野國那波郡ノ人左近衛
府將監正六位上權前公細主賜姓上野朝臣兼貫左京四條小
朝ノ宮ノ此朝臣ノ住リテト住玉ヒシ跡ニテモアリヤ後人ノ考ヲ俟

○河合村
後上野志ニ齊藤攝津守同石見守住スト云

○長沼村
後上野志ニ長沼ハ淵名ノ太夫兼行ノ季子長沼孝細ノ居所也

武家系図ニ長沼孝細ハ上野國ノ住人左貫六郎ノ弟也ト云

東鑑兼久記太平記續太平記等ニ長沼ト言ハ人救多見ユ鎌倉武
鑑ニ長沼ハ小山政光次男共子孫兼エテ皆川ヲ式トストイハ

川東鑑ニ皆川四郎ト云人モ見ニ下野ニモ長沼皆川ノ地名アリ
リテ長沼城ハ皆川山城守廣照天正ノ未迄相續セシ衰廢城考
ニ見エテ豆相記ニ長沼深谷記ニ皆川山城履北条五代記ニ長
沼ノ皆川山城守新田正傳或問ニ皆川山城守ハ在野ノ一族也
十トアルハ下野ノ長沼ナルヲ前上野志ニ長沼ヲ此上野長沼ト
廣照居住ノ地也トイヘル下野ノ長沼ハ救代見ニ代住シノカ
カ細ノ子秀基見エ其末ハ大屋ト見ユ此ハ救代見ニ代住シノカ
孝細ノ子秀基見エ其末ハ大屋ト見ユ此ハ救代見ニ代住シノカ

東鑑ニ建保三年二月十八日仰諸國關渡地頭可被止旅人煩但如

船賃用途者五料田可募其替云々

故ニ五料ノ名ヲオヘルカト後上野志ニイヘト志永慶流後ノ
五料ナラハ東鑑ニヨリシニハアラヌ

武田信玄軍勢ヲ渡シ復ヲ記シタルニ甲陽軍鑑ニハ五料武田三

代記ニハ御靈ト書リ要根志云上洲五料ニ猫目石ト云アリ其狀束或ハ栗ノ如円ニシテ
白透其中ニ黒点アリ云

○那波芝 日光道ノ駅也

和漢三才圖會ニ云泉龍寺開山白崖生禪師ハ名宝生号白崖姓橘

氏河州人善騎射詠和歌往金剛峯寺薙髮後至相州依清隱寺至一

和尚受具一十歳調房州永源寺寂室翁蒙示誨寓上野一十歳入日光山

誓曰不明大法終不下山一日煮粥偶粥鍋破裂豁然大悟後有那波

大江氏何某造泉龍寺延師為開山應永二十一年九月七日寂ニ七十歳

賜謚普賢円光禪師云々後上野志ニハ那波氏ニ家アリ藤原氏大江氏也泉龍寺
開基ハ藤原姓ノ那波氏也ト云然ルニ當寺ニ大江氏ノ
墓碑アリテ大江宗廣稱從五位下式部少輔那波城主當山開基永十五年戊子三月
六日トアレハ大江氏ノ開基ナルトシ外ニ天正十八年冬十月十八日ト云墓誌アリ

○堀口 日光道ノ駅也

武蔵七黨系図丹黨ニ堀口アリ太平記以來堀口ト云人救多見ユ

前上野志ニ堀口美濃守貞義ヨリ七代居之ト云

後上野志ニ那波城ハ堀口村那波掃部介政廣ヨリ駿河守宗俊迄

居住弘治元年癸スト云新田郡ニモ堀口村アリテ武蔵七黨ナルハ
何レトモ知カト太平記以來ノ堀口氏ハ
新田郡ノ堀口村ニテ斯ハ後上野志ニイヘル如那波城ノ跡ナ
ルニキカ

○福島村

後上野志ニ上福島ハ那波越前其子伊豫居住ト云

後上野志ニ上福島ハ那波越前其子伊豫居住ト云

○今村 後上野志ニ那波ノ臣長濱住ト云一説ニ那波氏志永慶流後小泉ヨリ移

○連取村 天神ノ社地ニ松ノ名木アリ辛崎ノ松ニ似タリ

○上宮村 延喜神名式ニ倭文神社 三代實録ニ貞觀元年己卯八月十七日庚子上野國正六位上倭文

神列於官社同廿日癸卯授上野國正六位上倭文神從五位下

上野國神名帳ニ從一位倭文大明神神代卷ニ倭文神ハ建業從命

和名抄ノ鄉名委文ハ之止利神名ヨリ地名トナルカ地名カ神名

○新田正傳或問ニ武洲小阿瀬合戦ニ正田平右衛門半柄有故ニ

○下宮村

延喜神名式ニ火雷神社神代紀ニ伊弉册尊ノ御子八雷ノ中ニ在

日本後紀殘缺本ニ延曆十五年八月甲戌上野國那波郡火雷神為

官社 上野國神名帳ニ從一位火雷大明神

○さや田 八雲御抄サヤ田上野萬葉ムラナハ藻塩草ニサヤ田上野

和名抄ノ鄉名ニ鞘田佐也トアルハ是ナルヘシト上野風土記前

上野志等ニイヘリ 上野名跡考ニ云名所集ニ佐野田ヲサノ田

トヨエテ群馬郡ニ入レシハ誤也野ハ上古ヤノ借字ニ用タリ和

名抄那波郡鞘田ノ鄉アルヲ以正レトスヘシ佐野田ハサヤ田也

サテ其鞘田ハ今群馬郡ノ齋田村也ト云散水奇歌集 秋の夜はさや田なるは 藤の葉はさや田なるは 同

○佐位郡

延喜民部式ニ佐位郡 和名抄國郡部ニ佐位

名跡考ニ佐位ハ郡縣境目ノ美安今塚村存亦ハ狹少ノ美ニテ
郷地狹キヲ言カト云 和名抄佐位郡郷名 名橋 有桐原形 岸新 反治 佐井 淵名 布知奈

驛家 雀部 伊佐部 美侶

淵名ハ今五存 名跡考ニ名橋ハ波志江反治ハ借字ニテ土師
ナトノ美ニヤ今蓮村アリ佐井ハ翠雀部ハ伊勢崎美侶ハ今ノ
茂呂村カト云

延喜神名式ニ佐位郡一座 大國神社

同書兵部省ニ上野國驛馬佐位拾足傳馬五足

續日本紀ニ云神護景雲元年三月乙卯上野國佐位郡人外從五位

上檜前君老刀自賜姓上野佐位朝臣同二年六月戊寅以掌膳上野

國佐位采女外從五位下上野佐位朝臣老刀自並為本國國造

室龜二年正月庚申授外從五位上上野佐位朝臣老刀自正五位

下國造淨成女並從五位下

上野國神名帳佐位郡

從一位大國玉明神 從三位八田女明神 從四位上郡玉明神

從四位上郡都奈明神 從四位上於神明神 從四位上穗積明神

○淵名村 和名抄ニ淵名ハ布知奈

前太平記義家奥州攻官軍ニ淵名兼助同太夫兼行同三郎武行

北越軍記ニ淵名上野介ト云人モ見ニ

武家系圖ニ秀卿三代兼光ノ孫淵名太夫兼行ト云鑑倉武鑑ニ藤

原秀卿五代ト云モ同 新編鑑倉志ニ龜谷ノ禪尼ハ上野國淵名

與一實秀ノ女北條實泰ノ室實時ノ母也ト云

○大國神社當村ニアリ

延喜神名式ニ大國神社 上野國神名帳從一位大國大明神

今ハ五姫大明神ト稱シ奉ル土人ハゴノ宮ト云
神代紀古語拾遺等ニ大國魂之神而所祭此神者居多シト云古書紀
通傳ニモイツレノ大國魂トモ申テ拜祀也故ニ誤國ニ大國御
國々ニテ國魂トモイリ
五姫ト奉稱ハ老刀自來女淨威女等ノ五人御魂ヲ合祀ナルレ
但レ額ラ奉五姫トアレハ何レノ神ノ五女ニカマスヘキ

○太田村

前太平記ニ太田太夫行尊同行政 潤名トナラヘテ奉タリ

今昔物語秀郷郎等ニ太田 武藏七黨系図猪俣黨ニモ太田アリ

東鑑ニ太田民部大夫 太平記ニ太田 他新郡ノ太田カ斯カ亦ハ

武家系図ニ大田ノ別當下野守武行潤名ノ第トアレハ前太平
記ノ太田ハ斯カ但レ武行ノ孫ニ吾妻ノ權守アレハ吾妻ニテ
モアリヤ和名抄吾妻郡ニ太田ノ郷アリ後考ヲ俟

○伊勢崎

後上野志ニ云土入傳言モト赤石ノ郷元龜年中伊勢崎ト改云々

關東古戦録ニ永祿三年十月景虎上州出馬勢多郡伊勢崎ノ砦ハ

上野名跡志三編上七七

ハ膳備中守宗次萩田備後守潮田至税介毛利丹後守四百余騎ニ
テ馳向早速攻落スト云 勢多ハ誤佐位郡也

北條五代記小田原籠城ニ付楯籠關東城々ノ中ニ伊勢崎

癸城考ニ天正十八年小田原ノ役ニ城陷城主未考ト云

○波志江村 羣馬郡ナリ 大友齊院ノ次官トアリ大友村ハ

前上野志ニ波志江古城ハ佐位治官居之壽永元曆之頃右大將頼

朝ニ任テ功アリト云 按ニ齊院次官親能ハ上野トアリ

百練抄ニ齋院次官親能ハ前中納言雅頼卿ノ家人ト云

波志江村ニテ瓦偶人ヲ掘出シ夏桂林漫録ニ見ユ

○田部力井村

後上野志ニ云岩松遠江太郎時兼ノ四男田部力井經氏其子四郎

泰經其子仲泰其子太郎三郎泰寬ハ高時ニ屬元弘三年五月十六

日分倍河原ニ戦死ト云

○小此木村

後上野志ニ元亨ノ頃小此木彦次郎盛光天文ノ頃小此木左衛門尉長光居ト云

○赤堀村

後上野志ニ赤堀市場ト郷足利又太郎忠細ノ弟足利二郎泰細ノ四代孫太郎教細始テ赤堀ト称ス八代ノ裔上野介景秀迄住ス城跡ハ今井ニ在八幡ノ社ノ内ニ五輪アリト云○今井宝珠寺ニ藤原秀郷ノ墳アリ赤堀氏建ルト云

○下觸村

後上野志ニ云石山觀世音上ノ大石數十枚皆シテ墨ム力如シ其大石ノ鼻ニ正觀音ノ像アリト云今ハ御堂ノ造力ケタリ石ノ鳥會和訓葉ニ十四章順拜因會等ニ上野國中城山社ニ有大石此六尺トアレト今宮城山ト云地知ラシス此上野ノ國內ニテハ此野ノ口ヨリ大ナルヲ見ス人々佛ニ鳥居アルヲ不審ス勝地吐懐編ノ頭書ニ是古風也近江國蒲生郡ニ二所俱ニ虚空藏菩薩

ノ神社アリテ鳥居アリトイヘリ我見ル所緑野郡板倉村不動尊トトニモ鳥居アルナリ

○後上野志ニ塲ニモ武士ニモ古壘アリ金山持ニテ天正十八年

癸スト云東鑑ニ塲藤兵衛尉同平次兵衛尉トアルハ下総力武石三郎同次郎同四郎ナトアル武士ハ信州ノ武士也ト和訓栞ニイヘリ新田正傳或問ニ新田三十六騎ノ内根岸ハ武士ト見ユ

○勢多郡

延喜民部式ニ勢多郡和名抄國郡部ニ勢多郡

和名抄勢多郡郷名深田田邑多無芳賀波加桂萱加也

真壁倍万加時澤無曾深澤佐波藤澤左波桂萱加也梅宿梅宿迎刃今モ云深田ハ今ノ箱田田邑ハ田室芳賀ハ端氣桂

萱ハ片貝深深ハ溝呂木時沢ハ室沢藤沢ハ泉沢ナトニヤト云

延喜神名式ニ勢多郡一座 大赤城神社

上野國神名帳勢多郡

從三位於神明神 從三位鳥取明神

正四位下郡玉明神 從四位下高井出明神

正四位下若國玉明神 正五位上井出上明神

正五位上小出明神 正五位上霜河明神

正五位上神前明神 赤城若御子明神

續日本紀ニ云天平勝宝元年閏五月癸丑上野國勢多郡小領外從

七位下上毛野朝臣足入授從五位下

○赤城

延喜神名式ニ赤城神社大名神祭ノ中ニ赤城神社一座

續日本後紀ニ兼和六年六月甲申授上野國无位赤城神從五位下

三代實錄ニ云貞觀九年六月廿日丁亥授上野國從五位上赤城神

正五位下同十一年十二月廿五日戊申授上野國正五位下赤城神

正五位上同十六年三月十四日癸酉授上野國正五位上赤城神從

四位下元慶四年五月廿五日戊寅授上野國從四位下赤城沼神從

四位上

上野國神名帳ニ正一位赤城大明神

和漢三才圖會ニ赤城三所社有甘樂郡祭神盤筒雄大神允恭天皇

ノ朝出現ト云ルハイタク夕カヘル也上ツケ大勢多ノ赤城トヨ

メリシ哥モアルモイタク夕カヘル也上ツケ大勢多ノ赤城トヨ

赤城ノ神社ハ三夜沢ト云ニ南向ニ同宮居ニ社立テ建リニ社

ニ鳥居アリテ額ニ正一位赤城大明神トアリ赤城山ノ禁也嶺

ノ小泥ノ端本社ニテ斯ハ里宮カ古ハ今元三夜沢ト云地ニマ

前上野志ニ号覺滿大菩薩トイ七後上野志ニハ祭神諸説アリ大

已貴ノ命亦ハ覺滿大菩薩ナト云山ノ上ノ宮ハ三夜沢ニ同シ世

ニ云奥ノ院ノ如乎ト云 傳説雜記ニモ大己貴命ナランカ一書
ニ安閑天王ノ御宇盤筒雄大神出現ト云々高野邊左大將家成ト
云レ入ノ夏ヲモ委記タレト信カタク説トモナリ
山吹日記ニハ社家ノ説トテ三夜沢ノ宮東ノ宮ハ中日本武尊
左大己貴尊 右少彦名尊 西ノ宮ハ中豊城入彦尊 左天照
大神 右大山祇神ト云 神鏡アリ般若經ニ部アリ 永正十八年ト云
後上野志ニ云三夜沢祝某ノ家ニ小田原北条家ノ制札ヲ藏ス其
辞ニ駿河富士淺間大菩薩赤城山内号小路之嶽地ハ御飛之由救
度御神託無疑之由云々永祿十二年閏五月廿三日トアリト云
山吹日記ニムカシ高野邊左大將家成トイヒシ人此所ハサスラ
ヒキテ延元元年ニウセ玉ヘリ其菩提ノ為ニソナヘントテ十一
面觀音ノ像千鉢ツクリテ此社ニ納奉シトテ今モ此里ニツタヘ
モタルオホカリ座像五寸余立像八寸余ノ木像ニテ高野邊左大

上野名跡志三編上ノ十

將十三回忌ニ為其菩提ニ作ル延元十三年ト彫付タリ延元元年
二月廿九日改元同十二月廿一日後醍醐帝吉野ヘ行幸ナラセ玉
ヒ年号三年ツ、キタルヲ都ニテハ立カヘリモトノ建武ヲ用ヒ
玉ヒ其後シハノ、吉野ニテモ京ニテモ改元アリケルヲ此國ハ吉
野ニシタカヒ奉レハ其朝廷ノ年号ヲ用ヒキテカ、ル乱世ナレ
ハ其ハヤウ改リケルヲシテ猶延元十三年ト書ルニテマコト
ハ正平三年ニナンアリケル云々
○東鑑ニ赤木左衛門尉平忠光 續太平記ニ赤木志摩守ト云人
見ユ 爰カ他國カ未考
前太平記ニ將門暫上野國高木山ニ在陣ストアリ名跡考ニ高木
山ハ赤城山カト云三夜沢ヨリ峯ヘ三里アリ道ニ牛石ト云アリ
湯ノ沢ハ東ノ谷間ナリ山吹日記ニ谷間ニ家居シテ湯アミノ人
ヲヤトス云々

東鑑ニ建長三年四月十九日上野國赤木嶽燒為先例兵革兆之由

今在藤寺申之由云々 此前モ燒レヌアルニヤ

夫木集上野

上つげの勢田ノ赤城北ノ中沼ヲモトニ以テ石垣ヲ造ル

同 赤代ノ河ノ上ノ山ノ由核更々此ノ由ニ知被ル

鎌倉右大臣 橘 盛 長

秋森寛ニアリキ山ハ備中アカキ山ハ赤勘國トアレト此赤城

山吹日記ニ云赤城山ハ鍋破嶽荒山黒檜嶽地蔵嶽ナトアリ地蔵

中ニモ高シ石ヲ積上タル上ニ地蔵座リ應永十三年八月十三日武

藏國佐貫庄妻塚村淨土寺ヨリ安置ストアリ大神ノ神室ヲ納シ

所トテ土人ハ地蔵嶽トハイハス神庫嶽ト云々

按ニ佐貫ノ庄ハ此上野國ノ邑柴郡館林ノ辺也武藏ニモアル

○黒檜嶽 久呂保ノ根呂ナリト云

名跡考ニモ久呂保久呂比音通久呂保ハ黒檜ナルヘレト云

後上野志ニ黒檜取高峯神祠アリト云

上野

萬葉十^{上野}歌 賀美都氣野久呂保乃称呂乃久受葉我多可奈師家思良尔伊夜射

可里久母 畧解ニ久呂保ノ嶺土人ニ問ヘレ久受葉我多モ地名ナラニカ猶

考ヘシト云 久受葉我多ハ萬葉カツラナルヘシツラノ反タナリ

山吹日記ニ云赤城ハ峯ニ沼ニツアリ大沼小沼ト云大沼ニハ東

ニヨリテ中島アリ赤城明神ハ小沼ノ東ニマシマスモト黒檜ニ

宮居アリシヲ明曆二年斯ニ移奉リレトイヘト三代實録ニ赤城

ノ沼ノ神ト見エ玉ヘハモトヨリ茲ニマシケンカレ小沼ニ手ア

ラヒロソ、キテヲカム云々 後上野志ニ宮ヲ大堂ト云々

名跡考後上野志等ニ相傳テ此沼ヲ石垣沼ト云々

按ニ石垣沼ハモトヨリ名所トイヘトオク山ノ石垣沼

○石垣沼

八雲御抄 藻塩草 類字名所和歌集 題林和歌集 秋森寛等ニ

イハ垣沼 上野 八雲御抄ニ石垣沼名所ナラテモヨムト云
於遺意 おろし山乃石垣沼のみこりていこむやいとんりやうとさふみ 人丸
後於遺雜 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 小弁
千載意 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 俊成
新勅撰夏 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 大道前
續古今意 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 真照法師
同賀 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 春宮大夫師頼
新後於遺雜 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 源經氏
新續古今意 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 後鳥羽院
勝地吐懐編ニ石垣沼上野
於遺意 おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 此歌ハ
モト萬葉十一ニアリテ癸句青山ノトイヘリ石垣沼名所トハ見
エスオナシ集ニカケロウノ石垣淵云々古今ニ石垣紅葉トモヨ

上野名跡志三編上十三

ソルハ夕、若ノ垣ノコトクナルニイヘレハ石垣沼コレニテ心
ウヘレサレハ堀川院初度百首ニ
おろし山乃石垣沼のあやまき記たきりていこむやいとんりやうとさふみ 師頼 御
コレ名所ニアラヌ證ナリト云
新著聞集ニ上州赤城山ノ天狗杉ノ坊紀州有田郡由良法灯寺七
堂伽藍ヲ一夜ニ造立ノ夏見ユ

○深澤神梅

関東古戦録ニ云景虎桐生ヲ攻柗崎以下ノ逞兵黒川谷ヨリ攻ル
勢多郡神梅ノ郷士愛久澤能登守同弥四郎松島式部少輔同孫九
郎等四五百人裁所ニ打出支ントス此者共ハ頼義前九年合戦終
飯浴ノ時供奉シ来テ爰ニ留住共裔也ト云今桐生ニ属スレハ支
ントスル也柗崎武畧ヲ用無難ニ通リ桐生ハ押諾ト云
新田正傳或問ニ云永祿二年新田成繁黒川山中ヲ攻和ヲ乞新田

一 屬ス元龜三年新田ヨリ深澤ノ城主阿久澤能登守ヲ攻日光坂
二 出張手振ノ番所ニテ寄手ノ麾ヲ取深沢方寒梅右近田井磯田
等能防戦ス寄手ノ大將矢場兵部少輔鍊炮ニ當ルサレトモ寄手
其場ヲ不去攻入兼テ黒川二十一騎へ内通有故後切有テ深沢終
ニ落城寒梅右近新田ニ降ト云
名跡考ニ云深澤古壘ハ芥沢氏ノ居芥沢松島東宮高草木荒蒔等
桐生七騎云々 芥沢夢久沢阿久沢同キカ
傳説雜記ヲ案ニ初桐生ニ屬シ後小田原ニ通ス故新田ヨリ攻
シ也和ヲ七テ新田ニ屬ナカラ猶小田原ニ通ス
後上野志ニ小夜戸ノアタリヲ黒川山中ト云松島ニ鳥海明神ヲ
祀ル黒川山中ニ宗任放流ト傳ルモヨシアルカト云
前上野志ニ深澤神梅ハ阿久沢能登守松島式部亮居天正五丁丑
四月新田國繁攻之後和睦ト云 東鑑ニ黒川郷トアルモ斯カ又ハ
甘樂郡カ不并猶考ヘシ
後上野志ニ沢入ハ松島式部大夫 座間ハ橋丸修理亮 草木ハ

上野名跡志三編上十三

高草木筑前守 神戸ハ小曾根筑後守 小中ハ松島淡路守
桐生七テ後ハ金山ニ屬スト云
○上野志名跡考等ニ下田沢村ニ粟生権現祠アリ粟生左衛門靈
ヲ祀ト云

○膳村

後上野志名跡考等ニ膳ハモト善三善氏爰ニ住スト云
甲陽軍鑑北條五代記等ニ碓氷峠合戦上杉方ニ膳 関東古戦録ニ
景虎桐生大炊介直綱カ旗下タル膳ノ城ヲ陥ル太田三樂小田原
ヲ攻ントス其催促ニ應スル人々ノ中ニ膳備中守
名跡考ニ天文中善弥四郎康道同備中守居スト云 前上野志ニ
永祿十一戊辰六月廿八日野洲小俣ノ澁川相模守攻落ト云
名跡考ニハ元龜三六月澁川横瀬ノ為ニ落ル後上野志ニハ元龜
三六月廿八日開城家臣齋藤右近如主ヲ輔テ前橋ニ去ル跡ニハ

大胡民部左衛門澁川主膳住ト云永祿モ元龜モ同六月廿八日ナ
新田老談記ニ元龜三年四月廿日膳備中守小保ノ波川相模守ヲ
攻不利討死ト云サレハ六月廿八日又小保ヨリ攻ラレ開城セシ
ナルヘシ

甲陽軍鑑ニ勝頼前橋ニ在城東上州大胡山上ナト順見ノ所膳ヨ
リ足輕ヲ出シ安中ノ足輕トセリ合ヲ初終ニ軍ニ成云々
武田三代記ニ云勝頼素肌ニテ城ヲ攻シ例ナシヨシ勝利ヲウル
トモ兵家ノ古實ヲ犯ヘカラスト制シテ引上ントスルニ城中ヨ
リ數百人突出シ安中ノ備ニ突掛ル土屋惣藏敵味方ノ間ニ馬ヲ
衆入押ヘテ引ントスレト北條勢六具ヲ差堅敵ハ素肌ナルリ其
所引スナト云ニ武田勢サラハトテ一同ニ引返シ力戦スレハ城
兵防兼引入脇又市一ノ宮左近大夫衆込土屋惣藏二人門一番衆
ス真田考テ水ノ手ヲ切清見清太夫城將ヲ討取義兵七十餘人枕
ヲ雙テ討死ス殘ハ落去城竟ニ潰勝頼膳城素肌攻ト云ハ是也ト云

癸城考ニ城主失其姓名ト云

後上野志ニ天正八年ノ時ハ澁川主膳玉村五郎兵衛及口論闘爭

寂中故容易ニ落大胡ハ為淺見討死ト云

此時小田原持ニテ城將ハ大胡民部左衛門ト聞ニ討取レハ清見淺見イソレ是カ傳説雜記ニハ膳村ハ木戸玄齋ト云

○山上

東鑑ニ足利又太郎忠細引籠上野國山上卿龍興招郎從桐生六郎
許救日蟄居云々同書ニ山上太郎高光同小太郎同弥四郎秀威同
四郎時元 平家物語源平盛衰記曾我物語等ニ山上

太平記ニ山上ノ一族新田正傳或同ニ山上六郎左衛門新田十六

後太平記ニ山上小太郎重房上野山上喜三郎重芳

東路ノ裏ニ山上筑前守 相州兵乱記ニ山上 關東古戦録碓氷

峠合戦及平井城兵ニ山上同書ニ弘治元年北条氏康猪俣能登守

則直ヲ以山上城ヲ攻山上藤七郎氏齊ハ強梁ノ若武者ニテ能防

戰テ切技行方不知落失
正傳或問ニ永祿二年謙信山上伊豆ヲ攻落古戦録ニ景虎山上
城ヲ攻北条家ノ番卒ヲ追拂大胡民部左衛門ヲ入置
甲陽軍鑑ニ上洲浪人山上堂及ヲ信長一万貫ニ取立ル
北条五代記ニ山上正傳或問ニ天正二謙信東上洲突向山上ヨ
リ引取道及ハ在野ノ一族ナリト云
名跡考ニ云永祿ノ頃山上藤七郎氏秀為小田原落城シテ入道
道及ト云世ニ馬術ノ達人ト傳後上野志ニ余ノ常廣寺ノ所城跡
癸城考ニ云天正八年勝頼膳城ヲ攻取時山上城ヲモ可攻取之所
無左右引入ルト云
武家系圖鑑倉武鑑等ニ山上ハ藤原姓洲名兼行嫡男足利太郎成
行嫡孫太郎家綱三男山上五郎高細其子太郎高光ナト見ニ然ル
ヲ二宮系圖ニ藤原忠光建長四年宗尊親王供奉鑑倉ハ下向上野

國山上ヲ賜山上ヲ以氏トス四代忠勝觀應中足利直義謀叛ノ時
功アリニ宮村ヲ賜氏ヲニ宮ト改永祿ノ比迄十一代相續ト云
傳説雜記ニハ山上ハ山上入道宗久後ニ水戸大炊介云々

○山上行仙房之夏

元亨叙書曰叙行仙從靜道法師覺密教旁修念佛三昧不心念彌專
凝想觀居上野之山上性不莊飾或人請唱道會薪山中便腰鉗斧赴
檀家人貴其樸素凡覩物不取又不辭只墮處恣人受用弘安元年秋
微恙端坐如入定而化時慶雲挂菴前竹宛如曝紫衣又奇樂異香充
滿天外閣毗後得舍利其灰色紫而香仙先年預書臨終月日潛置篋
底其徒滅後勘行李始得其書相顧益遺德云々
沙石集ニ云上野國山上ト云所ニ行仙房トテ本ハ淨道僧都ノ弟
子真言師也ケリ近比ハ念佛ノ行者ニテ夕フトキ上人ト聞エキ
去弘安元年ノ秋ノ比入滅前ノ年ヨリ明年臨終スヘキ月日病ノ

夏共記メ箱ノ中ニ入置ク芽子是ヲ不知没後ニ開テ知之常ノ念
佛ノ如救返ナントハ無クシテ觀念ヲ宗トメ万夏世間ノ夏執心
ナキ上人ナリケリ說法ノ作法モ人ノ強テ請スレハ時ニ臨テ不
可思議ノ小衣ハキ高ニ著テ水切刀腰ニ差ナカラ說法シナント
ス布施ハ引ケハ制シモセスタ、ホシキ物思フサマニトリ用ヒ
ケル世良田ノ明實長老ト得意ニテ常ニハ佛法物語ナントシテ
禪門ノ風情モ心ニカケタル人ト見エタリ、或人念佛申スニ妄念
ノ起ルヲイカ、對治スヘキト問ケル返夏ニ
阿彌如來ノ心ヲ念フルハ
一返房ノ哥ニモ有臨終ノ躰端坐シ禪定ニ入如ニテ紫雲庵ノ前
ノ竹ニカ、ル紫ノ衣ヲウチオホヘルカ如シ音楽空ニキコエ異
香室ニ薰ス見聞ノ道俗市ヲナス葵送ノ後灰紫ノ色ニテカホリ
ナワカシ灰ノ中ニ舍利ヲ得ル佛舍利ノ如シ彼弟子親カタリキ

上野名跡三編上ノ十六

カツハ灰モ舍利モ見侍キ世間ノ風聞是同シカリキト云

○大胡

平治物語平家物語曾我物語等ニ大胡 源平盛衰記足利又太郎
一門ニ應護 大故也 同書大胡小橋太 東鑑文治五年上野國大胡
左貫等住人云々 北条九代記同
東鑑ニ大胡太郎同左門太郎同弥次郎同五郎光秀 兼久記ニ大
胡太郎左衛門尉 太平記ニ上野國住人大胡 續太平記大胡太
郎 後太平記ニ同シ 甲陽軍鑑ニ大胡 東路ノ畧ニ大胡上野
介ノ館アリ云々
關東古戦録河越夜軍碓氷峠合戦平井城兵等ニ大胡同書ニ弘治
元年氏康猪俣能登守ヲ以大故ヲ攻ル同書ニ大胡武藏守信細
北条五代記小田原籠城ニ付楯籠關東城々ノ中ニ大胡 忍城兵
ニ大胡弥三郎 上野風土記ニ大胡ハ大胡武藏守居住

夏共記メ箱ノ中ニ入置ク芽子是ヲ不知没後ニ開テ知之常ノ念
佛ノ如救返ナントハ無クシテ觀念ヲ宗トメ万夏世間ノ夏執心
ナキ上人ナリケリ說法ノ作法モ人ノ強テ請スレハ時ニ臨テ不
可思議ノ小衣ハキ高ニ著テ木切刀腰ニ差ナカラ說法シナン
ス布施ハ引ケハ制シモセスタ、ホシキ物思フサマニトリ用ヒ
ケル世良田ノ明實長老ト得意ニテ常ニハ佛法物語ナン
禪門ノ風情モ心ニカケタル人ト見エタリ、或人念佛申スニ妄念
ノ起ルヲイカ、對治スヘキト問ケル返夏ニ
一返房ノ哥ニモ有臨終ノ躰端坐シ禪定ニ入如ニテ紫雲庵ノ前
ノ竹ニカ、ル紫ノ衣ヲウチホヘルカ如シ音樂空ニキコエ異
香室ニ薰ス見聞ノ道俗市ヲナス葵送ノ後灰紫ノ色ニテカホリ
ナツカシ灰ノ中ニ舍利ヲ得ル佛舍利ノ如シ彼弟子親カタリキ

カツハ灰モ舍利モ見侍キ世間ノ風聞是同シカリキト云

○大胡

平治物語平家物語曾我物語等ニ大胡 源平盛衰記足利又
一門ニ應護大故也 同書大胡小橋太 東鑑文治五年上野國大胡
左貫等住人云々 北条九代記同
東鑑ニ大胡太郎同左門太郎同弥次郎同五郎光秀 兼久記ニ大
胡太郎左衛門尉 太平記ニ上野國住人大胡 續太平記大胡太
郎 後太平記ニ同シ 甲陽軍鑑ニ大胡 東路ノ畧ニ大胡上野
介ノ館アリ云々
關東古戦録河越夜軍碓氷峠合戦平井城兵等ニ大胡同書ニ弘治
元年氏康猪俣能登守ヲ以大故ヲ攻ル同書ニ大胡武藏守信細
北条五代記小田原籠城ニ付指籠關東城々ノ中ニ大胡 忍城兵
ニ大胡弥三郎 上野風土記ニ大胡ハ大胡武藏守居住

名跡考ニ天正年中大胡常陸介高重迄相續シテ居于此ト云

然ルニ新田正傳或問ニ永祿一年謙信大胡ノ城至益田伊勢守

ヲ攻取益田新田ニ落ルトアルハイカ、上泉ハ大胡ノ山莊ト

イハ八上泉伊勢守ノ莫ナルヘシ

江ノ名所因會ニ大胡太郎成行十代彦次郎重治上州大胡ヨリ

武州牛込ニ移住氏ヲ牛込ト改北条氏康ニ屬スト云天心ノ頃

迄爰ニ往シハ其類族カ

傳説雜記ニ太田道真同道灌大胡ニ住ト云暫來居シ莫アリヤ

他書ニハ不見

鎌倉武鑑ニ大胡ハ佐野ノ一族上野國ニ住武家系因ニ足利大

郎成行ニ男大胡太郎重俊其子二郎成家ナト見ユ

癸城考ニ天正十八年小田原攻ノ時大胡城モ遂ニ落城ス城主未

考ト云法然上人傳記ニ云上野國ノ御家人大胡小四郎隆義在

京ノ時上人ノ勸化ニアツカリ深ク念佛ヲ信受シタル云々其子

大胡太郎實義モ父ノ跡ヲ才ヒテ称名怠無リケリ云々

○新著聞集ニ上州大胡村名主七之助母七十餘歳三歳ノ孫ヲ噉

手許残ス云々

○女淵村

関東古戦録ニ景虎女淵ノ小城ヲ抜捕毛呂因幡守ニ與ヘテ館林

ノ加増トス云々新田正傳或問ニ永祿二年謙信小奈淵園書ヲ

攻落ト云前上野志ニ足利ノ士荒川園書居之ト云後上野志

ニハ城至不詳ト云名跡考ニ女淵ハ南洲ノ姓カト云

二宮系因ニ觀應中足利直義尊氏ヲ亡ントシテ上杉憲顯ニ被攻

女淵ニテ敗シ足利ニ退ト云傳説雜記ニ是ヲ上野國女淵ノ大

合戦ト云ト示同書ニ沼田平八女淵ニ浪人セル莫見ユ

○深津村

古戦録ニ太田三樂小田原ヲ攻ントス其催促ニ應スル人々ノ内

ニ深津刑部少輔美安

○大室村

後上野志ニ長尾持收彈正居ト云昌賢影像記ニ長尾権四郎政

景誅スト云 傳説雜記ニハ大室ハ杵和泉守ト云

○大屋村

産泰大神マセリ木花開耶姫ノ命ヲ祀ト云

名跡考ニ云藤原系図ニ據ニ秀郷五代淵名兼行三男長沼ノ男秀

基号大屋其子秀忠ノ孫大屋能登守秀康兼久ノ乱ニ院方ノ大將

軍ニテ敗テ於河内國自害ス此大屋村ヨリ起カト云

武家系図ニ大屋三郎秀忠其子大屋大和河内守秀宗其子秀康ト云

○苗ヶ島村

傳説雜記ニ苗ヶ島ハ桃井播磨守住ト云

○二ノ宮村

南方記傳ニ康正元年十一月千葉小山成氏ト一味レ上野國二ノ

宮ニ蜂起ス云々 東鑑ニ二宮ト云人多ク見ユニ宮系図ニ山上治

宮ヲ賜依テ山上ヨリ二宮ト改ト云東鑑ノ二宮ハ其前ナレハ別

○正一位二宮大明神

赤城ト御同跡ニマスト云赤城ノ荒御魂ヲ齋カ御神幸ノ外ツ

玉ノ大ナルカ 後冷泉院佛舍利一粒ツ、納給神社ノ中也ト額ニ見ユ此亥ハ

杖乘畧記ニ永長四年十一月廿五日諸國諸社公家送佛舍利一

粒云々 永長四年十一月廿五日諸國諸社公家送佛舍利一

元亨叙書ニ永長四年十一月廿五日諸國諸社公家送佛舍利一

後上野志ニ頼朝御建立ト云トイヘトサテハ永長佛舍利ニ

アハス大古ヨリノ二宮ナルヘシ

○荒牧村

源平盛衰記ニ伊勢三郎義盛ハ上州荒蒔ト云所ニ往義経ト主従

ニ成云々 此支平治物語ニハ松井田美經記ニハ板鼻トアリ

郡ハ新巻ト書リ 東路ノ畧ニ荒蒔和泉入道ノ宿所ヨリ立ヨルヘキヨレアリト

アルハ心シク斯トキユユレハ古ハ荒蒔ト書レナルヘシ

○青柳村

神鳳抄ニ上野國内宮青柳御厨 布三十段百二十丁 建永符八十丁

東路ノ裏ニ云大胡ヨリ野山ヲコエテ青柳ト云里アリ云々

古戦録ニ武康前橋在城青柳邊ノ諸將ヲ飯降可令成半ツカヒ

テ云々義輪軍記ニ青柳金王忠家青柳治部ナト云人見ニ此地所産ノ人カ但邑樂郡ニモ青柳村アリ

○細井村

神鳳抄上野國細井御厨七十六段三十五丁

○上泉村

関東古戦録ニ云弘治元年氏康既橋ニ在城ス沼田倉内ノ城代指
侯能登守則直ニ上泉ヲ攻サズ城至大胡武藏守信細寡ヲ以衆ニ
敵シ難一旦ノ害ヲ脱ントヤ思ヒケン和ヲ乞テ北条衆ニ降レリ
景虎平井ニ来大胡武藏守カ密使ヨリ長野業政長尾謙忠ニ既
橋ヲ押ヘサセ景虎ハ利根川ヲ渡上泉邊ニ乱入云々上泉伊勢守
ハ策輪ニ籠テ落城ノ時切抜東上州へ落桐生大炊介直細カ家ニ
倚頼シテ死ト云

甲陽軍鑑ニ上泉伊勢ハ新カケ流ヲツカヒ出スト云

後上野志ニ上泉村ハ信細山莊上泉武藏守信細ハ劍術ニ名ヲ得

ルト云 傳説雜記ニハ上泉ハ大胡加賀守後ニ上泉武藏守信細

ト云

○峯村

後上野志ニ峯村ハ謙信ノ臣前橋ノ城代北条安藝守臣田中大貳
居之ト云

○後上野志傳説雜記等ニ 漆久保ハ長尾大膳 真壁ハ神谷三

河守 見立ハ見立権太郎 樽村ハ河内甲イ新四郎 各居所ノ跡ト云

傳説雜記ニ謙信永祿五年関根八崎等赤城ノ腰通ヲ長尾憲景ニ

給ト云

○八崎

昌賢影像記ニハ八崎ニ作ル 後上野志ニ云不動山古城八崎ニアリ長尾左衛門尉カ持也永正

六年長尾伊玄越後ノ長尾為景ト心ヲ合山ノ内ヲ背上杉憲房大
軍ヲ帥テ自井沼田兩城ヲ攻沼田ハ降自井ハ陷伊玄不動山ヲ保
云々同七年自井ハ飯城元龜三年長尾景憲信玄ノ為ニ自井ヲ被
破八崎ニ退天正元自井ニ飯城天正十八年八崎先ニ破自井落城
ト云 傳説雜記ニ八崎ハ長尾彦四郎左衛門景守子息四郎左衛
門尉景仲後ニ將監入道景賢景仲ハ自井城代ヲ務ト云
影像記ニ伊玄自井ヲ落利根川ノ向不動山ノ館ニ籠云々一井齋
不動山ノ館ニ入云々東上洲ヨリ攻來勢ハ癸崎ノ館ヲ兼取彼館
ヨリ鏡炮ヲ放掛ルナトアリ後上野志ノ説ニ同シ

○津久田村

傳説雜記ニ天正十年自井領津久田ノ楯屋敷ノ要害ヲ沼田ヨリ
攻ル伏兵アリテ寄手討死被生捕者多シト云

○宮田村

山吹日記ニ宮田村南向院什物エホレ著タルワラハ人形永正八
年未十二月一日

コマ大明六年九月十九日不動山ノ禁ニ熊野三島ノ社有石燈
籠嘉吉三年不動尊ハ二十丁許登窟ノ中自然石ノ像六地藏塔ニ
文明ノ文字見ユナト云 此不動山ハ八崎ノ城山カ又ハ別ナルカ
不知

○傳説雜記ニ天正十一年十月南方ヨリ長井坂ノ要害ヲ攻取宮
田ノ郷ノ須田加賀守ニ預クト云赤井山城守モ自井衆宮田住ト云

○溝呂木村

鎌倉大草紙古戦録等ニ溝呂木ト云人アレト斯トハ聞エス 相洲カ

○瀧澤村

北越軍記ニ南麻生計ハ上洲瀧沢松橋ノ城主トアリ斯カ又ハ他
カ不弁

○アゾ山

椽窪山ノアタリ今土人アゾ山ト呼所古ク歌ニヨメル安蕪山ノ
實跡ナラントイヘト定カナル證モナケレハ纂輪軍記ニヨリテ
群馬ニ出シ又傳説雜記ニ糸井ノ郷アソノ要害ヲ天正十一年南
方ヨリ攻取金子美濃守落失ト云

○糸井村

小高ノ神社ハ糸井村ニアリト後上野志名跡考等ニイヘリ
三代實録ニ貞觀五年五月九日辛未授上野國正六位上小高神從
五位下 糸井村ハ國図ニ據ニ利根郡ノ塚ナレハモトハ利根郡
ニテ上野國ノ神名帳ニ利根郡從一位小高明神ト見エ玉フ大神
ナルヘシ

○森下村

關東古戦録ニ為景虎沼田倉内落城楮侯左近大夫小田原へ走依
テ森下降叅太田三樂小田原ヲ攻ントス其催促ニ應スル人々ノ

上野志三編上卷一

中ニ森下三河守和田記ニ森下 後上野志ニ同

傳説雜記ニ天正十一年十月廿八日南方ヨリ森下ノ要害ヲ攻取

加藤丹波守討死ト云森下又左衛門ト云人モ見ユ

癸城考ニ天正十三年北条氏直兵ヲ沼田ニ發テ森下ヲ攻城遂ニ

陷城至不詳ト云

○保元物語義朝軍勢ノ中ニ上野國住人深巢七郎清國物射五郎

東鑑ニ深栖兵庫介同太郎鎌倉武鑑ニ深栖陵助光重上野トアリ

今深栖ト云地名不聞当郡ニハ深沢深津ナトアレハ先坂ニ爰

萬葉集十四上野歌

可美都氣努麻呂波思麻度尔安佐日左指麻伎良波之丹奈安利都

追見禮婆

畧解ニ今上野ニマクハト云所アリトイヘリトアレト聞オヨ
ハス書紀通證ニ妙美猶言眼也贊嘆精妙難見之辭ト云然ル
時ハ地名ヲ子ト上毛野ト云地アリテ音モ通ヘハ先坂ニ斯ニ
ナルヘシ

出レハツ仙覺揚ニモ朝日サス窓ノ夏トシテ窓ハアカリノ為ナ
マクハシマト、ウ、ケタリト云ヘト信カタシ

○傳説雜記ニ長坂ハ須田加賀守赤見山城守等ノ出張所津久田
宮田樽勝保沃水暮青柳引田箱田真壁八崎等ハ天正ノ比ノ勇士
ノ居所也亦觀應時代尊氏將軍ノ時管領上杉民部大輔憲顯橘山
ニ在城ノ節云々憲顯根城ナルヲ以家臣皆妻子ヲ橘山ニ差置云
是等ノ地名皆當郡カ不知厩橋ハ用水不自由故惣社ヨリ石倉ハ
引天文ノ洪水ニテ橘山ノ用水口ヨリ廣瀨利根切込テ本利根川
トナルト云夏モ見エ橘山ハ田口村ノ地内ト云古城跡アリヤ不
知

○山田郡

延喜民部式ニ山田郡 和名抄國郡部ニ山田 夜未

名跡考ニ山田ハ山ト云ノ外ニ意アルハカラス田ハ助語也
亦田井ノ義ナルカモ知ヘカラスト云

和名抄山田郡郷名 山田 大野 乃於 園田 曾乃 真張 万波

山名跡考ニ山田ハ村松堤村ノ辺大野ハ廣瀨場野ノ辺園田ハ丸
山宿吉沢村ノ辺ヲ今モ園田ノ庄ト云真張ハ三ツ堀カト云

延喜神名式ニ山田郡二座 小賀茂神社 美和神社

上野國神名帳山田郡

從三位賀茂明神 從四位上玉田女明神 從四位磯部明神

從四位上吉知明神 從四位御槐明神 從五位清御子明神

續日本後紀ニ云兼和二年七月甲子以空閑地上野國山田郡八十

町賜諱色

桃 宮系園ニ觀志中足利直義謀叛ノ時功アルニ依テ山田郡ヲ
賜トアレト一郡不殘ニハアラシ何村ナリシカ不知

○園田庄

神鳥抄ニ上野國園田ノ御厨布上分四文 三十疋二百余丁

東鑑ニ園田太郎同六郎同跡次郎左衛門尉同亦次郎同淡路前司
同七郎成朝謀叛組逐電ス 曾我物語富士ノ神供奉ノ人々ノ中
ニ園田 法然上人傳記ニ園田太郎成家入道智明
太平記ニ園田四郎左衛門同美作権守 正傳或問ニ四郎左衛門
ハ新田十六騎ノ内 後太平記鎌倉大草紙ニ園田四郎深手ヲ負
鎌倉武鑑ニ園田ハ秀郷ノ後佐野一族上野ニ住
武家系圖ニ洲名兼行ノ嫡足利太郎成行ニ男園田七郎成實其子
太郎成澄其子次郎成基其子小次郎淡路守俊基其子左衛門尉兼
俊ト云 新田正傳或問ニ東上洲園田成實ハ洲名家ヨリ出ツ和
田合戦ノ時園田一黨和田ニ與ス依テ成朝以下悉被誅其子下河
邊庄司五代ノ孫園田輔光ト名乗又舞水ヨリ相續共云建武ノ北
ヨリ新田足利ニ属スト云
後上野志ニ云吉沢村廣沢山園田氏居住ノ跡也園田ハ秀郷八代

上野名跡志三編上ノ卷三

足利七郎成實ヨリ斯ニ住テ家名ス文明ノ頃桐生ニ領知ヲ掠ラ
ル桐生ハ川ノ北ニアリ吉沢ハ川ノ南ニアリ新田ニ属ス文明十
一年國繁吉沢ノ郷萩原ニ隱居ス園田ヲ助ニ為也夫ヨリ救代歷
テ永祿天正ノ比右京亮俊政同秀政桐生攻先鋒タリ天正十八年
落城ト云 正傳或問ニハ文明十年國貞ノ萩原ニ隱居其子國繁
ト云

○廣澤村

神鳳抄ニ上野國廣沢ノ御厨
延喜神名式ニ 加茂神社
日本後紀殘缺本ニ延曆十五年八月甲戌上野國山田郡賀茂神為
官社 三代實錄元慶四年五月廿五日戊寅授上野國山田郡從五
位下賀茂神正五位下勳十二等
上野國神名帳ニ從一位賀茂大明神 神名帳頭註ニ大山咋ノ神

ト云 宮居ノ背ノ藪ノ中ニ灯籠形ノ塔アリ文和ノ年号見ユ

東鑑ニ仁治二年二月廿六日廣沢三郎兵衛尉實能與廣沢弥次郎
依郎從支及訃論ト云々同書ニ廣沢判官代同余三同五郎左衛門
尉同三郎右衛門尉 續太平記ニ廣沢弥五郎 古戦録ニ廣沢兵
庫介 武田三代記松山城中ニ廣沢尾張守信秀ト云人モ見ユ
武家系因鎌倉武鑑等ニ足利義魚ノ息義康ノ次男足利矢田判官
代義清共子廣沢判官代美實ト云ル足利天部矢田堀ナト近シ斯ナ

○廣沢茶白山ノ壘

関東古戦録ニ云天文二十二年八月景虎上州野洲堺目巡見シテ
山田郡桐生筋ヨリ佐野天祐ニ打越ニト逞兵二千餘人ヲ相見シ
新田領廣沢ノ堺野ヲ過ル金山横瀬雅楽介成繁ノ足輕大将金井
新左衛門遠見ノ為魚テ廣沢ノ茶白山ニ砦ヲ架ヘテ居タリケル
力越勢ノ往來ヲ聞テ天沼辺へ馳出道ノ側ノ小高キ所ニ馬ヲ立

上野名跡志三編上ノ五

見物ス謙信馬上ノ會叙無禮也討果シ砦ヲ燒ケト下知ス早雄ノ
若者共拔連テ掛ル金井ハ神明ノ森迄逃ヲ追掛レハ取テ返踏留
リ討死ス砦ヲモ燒討ニス云々 前上野志ニ此時與カノ侍野村
源七梅田半九郎働ト云新田老談記ニハ金山ノ由良信濃守國重
新田正傳或問ニハ永祿二年謙信廣沢茶白山ノ砦ヲ攻取在番衆
討死ト云天文二十二年トハ六年ノ違アリ是ハ永祿ノ方
後上野志ニ茶磨山物見番所ノ跡ハ上廣沢ニアリ町田ノ小高キ
所ニ金井ノ墓アリト云

○如来堂村

櫻雲記ニ云正平十九年七月廿七日上野國世良田伊豫守義政基
氏ヲ背故追討ス廿八日於如来堂義政自害スト云
如来堂地名カ佛堂カ知ラレト是ニ奉テ後人ノ考ヲ俟

○市場村

市場村ニ云正平十九年七月廿七日上野國世良田伊豫守義政基
氏ヲ背故追討ス廿八日於如来堂義政自害スト云

後上野志正傳或問等ニ市場國濟寺ハ金山出城市場備前守居所
ト云

○矢場村

正傳或問ニ新田國繁ノ弟横瀬矢部少輔定繁居ト云

○八田堀村

正傳或問ニ泉伊豫守基國其子中務大輔基繁實ハ泰繁舎弟其子

伊豫守繁俊住ト云

○矢部村

上野名跡考ニ云源平盛衰記ニ矢田判官義清アリ新田義國ノ三

子仁木細川ノ祖也未曾義仲ニ隨備中水島合戦ニ討死ス今矢部

村アリ此地ノ産ニヤ矢部ハ矢田部ノ約也ト云

武家系國鑑倉武鑑等ヲ按ニ美國三男美康ノ二子美清也武家系圖ニ仁木師美ノ次男矢田仁木二郎美勝ト云人モ見ユ

○今泉村

上野名跡志三編上卷

正傳或問ニ今泉ハ横瀬掃部居所ト云

○大町村

名跡考ニ大町村芋ノ森ニイハユル弘法大師ノ石芋ト云モノア

リ水中ニアリテ其葉常ニ枯ス葉莖常ノ芋ニ異ト云々

正傳或問ニ半宮大明神ト云

○沖ノ郷村

鎮守カラウス明神ノ社前ノ松毎年六月花咲トイハト未問見ス

實ニシカリヤ

○桐生

源平盛衰記ニ切牢六郎平家物語ニ切生曾我物語富士ノ狩

供奉ニ桐生東鑑ニ足利太郎俊細專一ノ者桐生六郎為顯隱忠

斬至入籠深山云々桐生六郎持叅俊細首云々桐生六郎以提

原平三申云依此賞可列御家人云々而誅譖弟主人企尤不當也雖

一旦不足賞習早可誅之由被仰景時則梟俊細首傍訖云々
武家系圖ニ云桐生六郎主人俊細ヲ討テ降ト云 後上野志ニ桐
生氏祖ハ藤原元細也文治二年入部桐生小太郎ト云ト云
關東古戦録ニ云永祿元年十一月上杉景虎桐生ハハ大胡武蔵守
信細郷導レテ杵崎以下ノ運兵黒川谷ヨリ攻入桐生ノ搦手ハ押
詰タルニ既ニ金山和談ノ上ハト大炊介直細降ヲ乞輝虎ノ幕下
ニ成云々 輝虎迄衛前久公ヲ供奉レ越山ノ所平井城ハ前管領
家没落ノ後武康外構ヲ燒破要害淺間ナレハ桐生大炊介直細力
居城ニ奉迁新田足利小侯ノ三家見次テ守護ス云々太田ニ樂小
田原ヲ攻レトス其催定ニ應スル人々ノ中ニ桐生大炊介
新田老談記ニ云桐生大炊介殿ハ佐野天山殿ノ舍弟又次郎殿ヲ
御養子ニ被成云々

上野名跡志三編上卷上

ノ舍弟ヲ養子ニシ桐生又次郎ト云桐生家ハ元來佐野大炊介祐
細ノ隱居所也新田用水ノ夏ニ付金山ト有確執桐生ヨリ松原瀨
ヲ取拂大口鐘ヲ切塞ク新田ヨリ是ヲ取拂七廣沢十騎塚野等守
之桐生方見之元宿ノ富士山腰ヨリ桐生川ハ元ヨリ要害ノ堀有
之所猶深堀渡良瀨川ノ水ヲ塞入ル依テ新田領ハ用水不來依テ
桐生ヲ攻ントス新田ヨリハ矢場ノ城主横瀨兵部少輔手勢百余
騎實城衆ニ百余騎先陣横瀨隼人唯上ノ原ニテ勢揃シ密ニ葉鹿
ノ諏訪ノ瀨ヲ渡リ小股ノ後大平ヲ越小友沢ハ出上菱根沢ヲ越
桐生ハ攻入桐生方ニテモ下泥ノ岸ニ柵ヲ振奇山ノ水戸町谷木
戸笛吹ノ水戸下富士山木戸山王水戸口々ヲ堅雖能防新田方搦
手ノ大將東小倉ヨリ山通越山ハ背ヨリ真逆ニ攻落セハ防戦不
叶桐生父子夜ニ紛多良沢ヨリ佐野ハ落行新田方ハ城ヲ受取在
番スト云 前上野志ニ云桐生古城ハ桐生大炊介居之天正元年

癸酉三月十二日由良信濃守攻落之其跡ニ横瀬勘九郎藤井紀伊
守居テ守之ト云 後上野志ニ桐生ハ天正元年新田金山ノ為
ニ滅ス由良成繁ノ手ニ入横瀬掃部長繁城代スト云
新田老談記ニ天正元年三月十二日為新田落城桐生殿佐野ハ
落ル同二年三月九日由良殿入部ト云
久方村西方寺ニ桐生氏代々ノ墓有苔ムシテ定カナラ子ト天
文ニ十四年五月ナド見ユ遠忌ノ卒塔婆ヲ建タルヲ見レハ桐
生大次郎藤原助細田原藤太ノ苗裔天正元仲夏終ト見ユ三月
十二日落城ト云ニ仲夏ト有サラハ討死ニハアラテ佐野ニテ
病死力但元龜四年七月廿八日天正ト改元ト云ニ三月五月
モ天心元年トアレハ何レ是カ定カタシ改元ト云ニ三月五月
深谷記ニ下野ニハ桐生左衛門ノ次郎殿トアルハ佐野ニ有シ
内カ

新田正傳或問ニ天正二甲戌年輝虎東上州発向桐生ハ直江山
城守攻來能防故引ト云 是ハ不心得モトヨリ金山ハ謙信ニ属セハ
子國繁ニ譲リテ桐生ニ隱居ス同十年ヨリ金山ヲ小田原ニ攻
ラレ開城シテ國繁桐生ハ移ル但正傳或問ニ金山ヲ小田原ニ攻
志ニハ十六年ト云シテ桐生ハ天正十八年没落スト云

上野名跡志三編上ノ六七

○桐生ハ郷ニテ數ヶ村アリ種々ノ絹ヲ織出セリ和漢三方因會
上野國産ノ内ニ新田山絹トアルハ今ノ桐生ノ織物ナルヘシ
仁田山ナリトモ云

東鑑ニ小倉ノ野次今泉弥三郎兵衛尉同書並兼久記ニ今泉七郎
東鑑ニ堤五郎同亦四郎太平記ニ堤宮内卿律師ナト云見ユ皆此
アタリノ地名也斯カ他カ不弁

名跡考ニ拾遺集賀

銘云々記きりての事なきはち此ひつゝるけめ之危 清原元輔

切蒲切符亦一本ニ桐生トアリ未勘國ナレト此桐生ナルヘ
シトイヘリ但名所補翼抄ニハ夫木集ノ清輔朝臣ノ庶ノ哥ヲ奉
生トアリテモ逆江ノ方マサルヘキカ栗本郡ニ桐生村ト言モ
アリトキケリ

○村松村

美和神社アリ

延喜神名式ニ美和神社

日本後紀殘缺本ニ延曆十五年八月甲戌上野國山田郡美和神為
官社 三代實錄ニ元慶四年五月廿五日戊寅授上野國從五位下
美和神正五位下勳十二等

上野國神名帳ニ從一位美和大明神 神名帳ノ頭註ニ大己貴尊
ト云 神代紀ニハ素盞鳴尊ノ御子大己貴尊古史記姓氏錄等ニテハ
六世ノ孫ト云

○小倉村

和漢三才圖會ニ云小倉寺在酒長厨ヌケカキ小倉村開山智明房俗名 齒田
太郎成家倭藤太秀鄉九代孫成基ノ長子也每夏射獵武功多於是
正治二年為大番勤仕上洛聽源空上人教化出家八十名智明隨從
六箇年而元久二年皈本國家族二十余人同出家於酒長御厨小倉
村造庵念佛三昧室治二年九月十六日寂壽七十五 每教人撫歌牧笛
田歌之代皆唱念佛此近國ノ農夫於然當時為禪僧菴云々

上野國神名帳卷之三 上野八

猶法然上人傳記ニ委見ニ 此頃ハ出家セシ武士多シ熊谷ノ
次郎守都宮弥三郎新田ノ太郎此齒田ノ太郎等也

○集古十種ニ上野國桐生碑高四尺余 幅一尺七寸余 釈迦立像殿立ニ射應

安六年七月五日ト云 土人小倉村東漸寺ニアル力古キ寺ナリト云

○須永村

神鳳抄ニ上野國內宮須永御厨上分布十段 口入二十段 五十四丁七反

○仁田山村 仁田山絹ト云ハ爰ニテ織初シ力

關東古戰錄ニ景虎仁田山ノ里見藏人宗連力居城ヲ攻落楯籠士
卒ヲ追拂云々 正傳或問ニ云永祿二年仁田山ノ芥ノ若ヲ攻取
在番衆討死ト云 後上野志ニ云仁田山赤菽城ノ里見藏人宗連
居テ桐生ニ属ス天文二十四年謙信ノ為ニ滅シ其地ハ猶桐生ニ
属ス永祿ノ比里見上總介寬堯入道安房國ヨリ流落シテ来ル大
炊介仁田山八郷ヲ割與ヘテ居シム元龜三年三月廿日桐生又次
郎力為ニ滅ス 應仁武鑑ニ二階堂左衛門尉政行居城上野山田

郡八山家老里見上総四郎トアリ谷山八山同所ナルヘシ
前上野志ニ赤藜古城ハ里見上総入道居之元龜三年壬申桐生大
炊介養子佐野天山弟桐生又次郎攻取之ト云

○高津戸村

後上野志ニ云高津戸ノ要害ハ渡瀨川ヲ臨タル高崖也モト山田
七郎平吉之ト云者桐生ノ為ニ七ト云ニ宮系岡ニ應永ノ比山
田ト云人有東鑑ニ山田五郎入道同六郎同彦次郎見ニ斯ノ人ノ
後上野志ニ山田亡テ後里見隆見同平四郎住天正六年新田ヨリ
被攻平四郎討死隆見自害ト云
正傳或問ニ云元龜三年新田ヨリ仁田山ノ里見瑞賢ヲ攻仁田山
ヨリモ高津戸ニ要害ヲ構頂永箇田等能防トイヘトモ不叶瑞賢
討死高津戸破却ト云 前上野志ニ云高津戸古城ハ里見平三郎
隆見居之天正五年丁丑五月由良信濃守國繁攻落之ト云

上野名跡志三編上巻九

傳説雜記ニハ天正六年九月ト云但シ新田桐生ノ勢用明ニ也セ
シヲ夜討ニシ高津戸飯自害ト云隆見瑞賢同人ナルヘシ元龜天
後上野志ニ高津戸ノ内養命ハ石原石見守居所跡ト云用明養命

○大間々

十六夜日記殘月抄ニ間々ハ埴ニテ土ノ心ノ終ニ崩ル所ヲ云上
野ノ大真間ナトモ其意也トイヘリケニモ渡瀨川ノ高崖ニテ躡
瀨ト云アタリナトハサル所也

○渡瀨川

日光山志ニ云水源ハ尾ノ御渡瀨ノ辺ヨリ流出ル
名跡考ニ水源ハ勢多郡深沢ヨリ出テ山田郡ノ中央ヲ流桐生川
ヲ交上野下野ノ場ヲ流ルト云古戦録ニ景虎渡瀨川ヲ渡ルト
○常ニ桐生大間々足利ト云ヒ式内ノ神社ヲヨカミ廻ル人ハ美
和賀茂ノ御社ニマウテ足利ノ大目ヲカケ學校ヲトヒ見ルモア
レ下野ノ國ナカラ足利迄書ツク桐生足利ノ間塚野小俣ノ間ヲ

桐生川流テ上野下野ノ國場トス

○小俣村 自是下野足利郡

太平記ニ小俣宮内少輔同小次郎

武家系圖ニ足利泰氏六男小俣法師賢室其子小俣郷房仲義其子

小俣小輔次郎義弘ト云

古戦録ニ小俣ノ澁川相模守モ桐生ト俱ニ景虎ニ属ス太田三樂

小田原ヲ攻ントス其催促ニ應スル人々ノ中ニ澁川相模守

正傳或問ニ永祿二年謙信小俣ノ御所ヲ攻落ス

新田老談記ニ元龜三年四月廿日謙信ノ臣菰田備後守膳備中守

案内ニテ小俣城ヲ攻折節城主澁川相模守ハ小田原へ参勤留守

居石井尊空百五十騎ニテヨク防寄手敗引退膳備中守討死ト云

傳説雜記ニ小田原没落ノ時澁川義勝モ亡ト云

山吹日記ニ小俣ニ板橋アリ上野下野ノ堺トス澁川相模守義勝

上野名跡志三編上七

ノ城跡アルヘシト云。鷄足寺ニ弘長三年ノ古鐘アリト云

上野名跡志三編卷上終

